

『棲神』の復刻に当りて

日蓮宗管長

身延山久遠寺法主

身延山短期大学々長

望月日滋

祖山教学の研究機関誌として、永年に亘り世に弘く知られて来た『棲神』が、この程、関係者の努力により、待望の復刻を見ることになったことは、身延山の関係者はもちろん同窓生の諸賢を始め、広く宗門内外の研究者にとつても、大きな悦びとするところであります。

大正二年十月に創刊された『棲神』は、現在五〇号を数えるに至っていますが、この間、戦時中にやむをえず一時休刊をしたものの戦後二十八年に復刊され、今日に至るまで、延山教学の舞台として、日蓮教学・仏教学を中心に、幾多の学術研究論文が発表され、斯界に益するところも又大なるものがありました。

しかるに、近時、創刊号以来十数号の『棲神』は散逸してしまつて、大学の関係者でさえも、手にすることができなくなつており、復刻を願う声も、次第に高まつて来ておりました。従つて、今回の復刻は学術研究上からも、又同窓会・学友会の歴史を知る上からも、貴重な資料として、各方面を裨益すること甚だ大なるものがある

『棲神』の復刻に当りて

『棲神』の復刻に当りて

と信じます。

爰に『棲神』の復刻に当り、関係各位に対し、その労をねぎらうと共に、江湖に紹介し多くの人々によってこの復刻が活用されるよう切望いたします。

身延山短期大学学頭

身延山短期大学教授

里見泰穩

「棲神」は大正の初期から刊行され、第二次大戦中、昭和十八年から二十八年に復刊されるまで中断の時期もあったが兎に角、学園の歩みを記録する貴重なものと言える。その発刊の当初は校友会誌として出発し、その内容も学生の作文や論策が、初期には多く、後次第に、学者の労を煩わして、研究論文、学術論文が掲載されるようになった。従つてその内容も、作文あり、論策あり詩歌あり、論文あり、学園の彙報あり、論文も学園の専門教育に関する宗学、仏教学に限らず、一般教育的な、人文科学、社会科学、自然科学に関するものまで多彩である。雑然としているようであるが、それらは又一面学園の情況と歴史を示すものであり、特に本学園に有縁の人々の感懐をそそるものに違いないと思ふ。

此のたび、出版社の犠牲的の好意により復刻の運びに到つたことを学術研究の進歩と学園の発展のための快事として有縁の人々と共に慶びたいと思ふ。